（1）　昭和49年4月3日（水曜日）　第28464号　上毛新聞　（明治25年3月28日 第3種郵便物認可・昭和24年2月17日運輸省特別認可第16号）　（日刊）

幻に終わるか上武国道

用地買収手つかず

計画路線内の宅地化進む

公共事業の抑制と金融の引き締めの影響をまともに受けた上武国道拡張内分の用買収に全然はいかないまま、新年度迎えた。建設省から相続税を新たにされる高額路線で、吉岡町の一部は、「ただの夢」になってしまった。長野建設の方法さえ上武国道になってるが、いまの情勢では、きびしくと言葉しかたない。このように、ことに、伊勢崎以外の利用関係に住宅をもとめる者は、上武国道の動向をこと新に、地元の一部には「幻の上武国道」の声さえ出ている。

上武国道路線図（高崎町～前橋市）

分割支払いなど検討

上武国道は建設省が直轄工事で、つくる国道一七号線のバイパス路、地元県開発庁の開発バイパスから前橋市日新まで全線四キロ、四十五年八月（伊勢崎市では昭和五十五年六月）に開通が決定している。本体は高崎市尾崎町の三千三十二メートルを、通過する。市町村は高崎市、新町、箕郷町、倉賀野町、伊勢崎市、寺尾町、東村、前橋市の二市二町村となっている。

はじめの計画では高崎町から箕郷町の高崎街道・南線までの十七キロの区間を、五年間で完成させる予定。高崎市内は、国道一号線の拡幅改修を、十一月から、三年間で完成させる。

しかし、地元の一部の反対、用地買収の難航などから、工事は、ストライキ、物資の値上がりなどの影響で、当初の予定より、一年半遅れの、四十六年度末に完成する。

ただ、高崎市内は、用地買収の進ちょくが、三年間で、ほぼ、完了する。

一方、箕郷町から、伊勢崎市までの、十七キロ区間は、昭和四十五年度から、五カ年計画で、用地買収を進める。

しかし、地元の一部の反対、用地買収の難航などから、工事は、ストライキ、物資の値上がりなどの影響で、当初の予定より、一年半遅れの、四十六年度末に完成する。

ただ、高崎市内は、用地買収の進ちょくが、三年間で、ほぼ、完了する。

一方、箕郷町から、伊勢崎市までの、十七キロ区間は、昭和四十五年度から、五カ年計画で、用地買収を進める。

国鉄動力車労組（動労）関係者は、五月八日、東京・品川の動労本部で、「国鉄の